



「思わず寄りたい」

お店づくりにチャレンジ【第2回】

テーマ1:ファサード(店舗正面外装)編 その1(間口感)

ファサードとは、店舗正面外装全体のことを言います。今回は“間口感”について考えてみましょう。たとえ売り場が狭くても、お客様に対して、より広い間口を感じさせることが大切です。また、夜間の営業は、照明効果により“間口感”を演出することが必要です。

見直しのポイント

- 店舗を広く見せるための“間口感”の工夫がありますか？

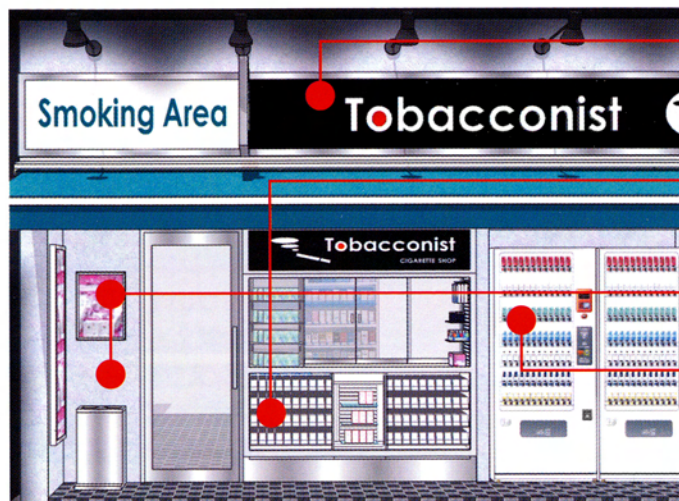
お店の“存在感”をアピールするには、店舗をなるべく広く見せて「ここからここまでが私の店です！」と表現しましょう。一つのイメージとして、絵画の“額縁”を思い浮かべてください。そして“額縁”の中に“売場”があると思ってください。この“売場”に限られたスペースを、より効果的に演出するにはどうすればいいのか、例をあげて説明します。

現状を見直しましょう!!

- 老朽化していたり中途半端なサイズのらん間看板や日除けテント等が、大切な店舗の正面部分のバランスを崩していませんか？
- 夜間にファサード(店舗正面外装)全体が真っ暗になっていませんか？
- 店舗の両サイドに工夫がありますか？
- たばこ自動販売機の設置位置は効果的ですか？



理想的な装置の紹介



- 上枠:パラペット(庇=ひさし)部分
らん間看板や日除けテント等は店舗の間口一杯に設置し、夜間でも全体が見えるようにスポットライト等を配置します。ここで大切なことは、照明効果に加え、デザインの統一です。
 - 下枠:エントランスホール床部分
セットバック(ウインドーケースが歩道より中に入り込んだ状態)が理想的です。お客様は落ち着いて購入できます。
 - 左枠:例)喫煙スペースと内照式パネル等
 - 右枠:例)たばこ自動販売機
- これらの目的要素をもつ装置を左右に配置することにより、夜間でも“光の柱”のような照明効果が得られます。

いずれにしても店舗の大小にかかわらず、「上枠と下枠のライン」が間口感のインパクトを強める絶対的な要素となります。今一度、店舗正面から少し離れて立ち、この上下ラインを改めてチェックしてください。